



工藤 秀子 議員

**質問1** 単独道路等整備事業の現状と今後の見通しを

**市長** 8路線が完了、添山29号線は全線コンクリート舗装の予定

**問** 単独道路等整備事業で平成30年度より3カ年計画で事業が行われている添山29号線、千代田16号線などの道路改良事業の現状と今後の見通しをお知らせください。

**答(市長)** 平成30年度以降に実施する単独道路等整備事業は、添山29号線、千代田16号線などの改良事業と新設事業を含む11路線があり、そのうちの8路線については、昨年度までに事業が完了しています。

今年度以降の事業は、継続事業である添山29号線道路改良事業と、今年度新たに着手する八軒家通線道路改良事業、新函館北斗駅北口道路新設事業の3路線の事業を予定しています。

**問** 添山29号線は全線コンクリートの舗装道路になるのか。

**答(土木課長)** 全延長約3千860mに関して、コンクリート舗装で整備を行う予定となっています。



コンクリート舗装された添山29号線

**質問2** 認知症チェックシートの提案をしましたが現状と方向性は保健福祉課長お知らせしたい

**問** 第2次北斗市総合計画の中で、「認知症の早期診断・早期対応により本人や家族を支援する体制の構築を進めます」とあります。

5年後の2025年には、65歳以上の高齢者の数は3千500万人を超えと言われており、厚生労働省の資料によると、認知症の患者の数は2012年は約46万人で、2025年には約70万人、5人1人程度に増加すると推測されています。そこでお尋ねします。

平成28年第4回定例会の一般質問で認知症のチェックシートの提案をしたところ、研究して進めていくとの答弁をいた

だきました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で大変な状況だと思えますが、現状と今後の方向性をお知らせください。

**答(市長)** 認知症高齢者の増加への対応については、体制の強化や認知症への正しい理解の普及啓発など、取り組むべき喫緊の課題であると認識しています。

また、認知症は、早く気づいて治療を開始すると進行を遅らせ、また病状を改善させることも可能といわれていますので、早期に発見して、対応することが何よりも重要であると考えています。

ご指摘の「認知症のチェックシート」は、市と地域包括支援センターや認知症地域支援推進員等の協力で、昨年12月に認知症の方と家族及び地域・医療・介護の人々が目標を共有し、それを達成するための連携の仕組みである「北斗市認知症ケアパス」を策定し、その中で、「認知症気づきチェックリスト」として掲載しており、市ホームページで公表し、ご家庭で認知症疑いを予見できるツールとして利用できるようになっていきます。

また、介護予防教室や認知症地域支援推進員等による地域の出前講座等でも幅広い活用がされています。

今後も、認知症施策のさらなる充実を図っていき、そして、認知症の方とご家族が地域で安心して暮らすことがで

きる仕組みづくりに努めてまいりたい。

**問** 認知症気づきチェックリストを広く周知するため、配布費用を掛けずに広報誌の一部へ掲載するなどいろいろな方法があると思うが。

**答(保健福祉課長)** 認知症気づきチェックリストが幅広く活用され、軽度の認知症の方を地域で見守る体制になるように、広報誌や社協だよりで、改めてお知らせしたい。

また、認知症については、町内会の出前講座や認知症サポーターが地域で活動する機会、小・中学校にて認知症サポーター養成講座を定期的に実施している中で、学習してもらう仕組みをつくってまいりたい。



気づきチェックリスト (北斗市認知症ケアパス)